

授業改善

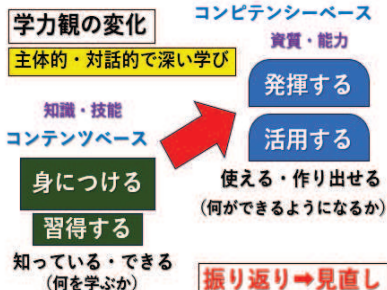
「探究的な学び」のサイクルをまわす

～東部地区研究主任等研修会～

8月19日（火）、鳥取市立江山学園谷口朋宏教諭、米子市立東山中学校廣岩青教諭を講師にお迎えして開催した研究主任等研修会には、50名を超える先生方に御参加いただきました。各学校で研究や授業改善を進める中、自校の実態や状況等を踏まえながら、取り入れられることや活かせることを積極的に学ばれていました。本号外では、研修会の様子と参加者の振り返りをご紹介します。

東部教育局から

今求められるのは、知っていることやできることを「発揮する」「活用する」ということを通して、知識をつなげ、さらに深い意味理解や学びへと繋げていく、コンピテンシーベースの学力観です。



子どもが主体的に学ぶために

自ら学ぶ力

児童が学び取る
児童が学び方を学ぶ

- ①自らの課題・学び方の見直し
- ②選択した学び方による課題解決
- ③学び方の振り返り



ポイントの①から③のような学習サイクルを繰り返すことで、児童生徒は自ら学び取り、学び方を学んでいきます。



子どもたちにどんな力をつけたいのかを全職員で考え協議し、決めた資質・能力を子どもとも共有しながら探究のサイクルを何度も回しながら課題設定をし直していくことが大切です。児童生徒も教師もPBL。

「小さく始めて、大きくそだてる」という考え方で継続的に取り組める学校体制づくりをしています。学校全体、全職員で「課題設定」を大事にし、各教科等において子どもたちに「問いを立てる力」を育成するための手立ての工夫や充実を図っていきましょう。

★ 探究的な学びやPBLの具体的な実践方法を学び、自校の授業改善の方向性が明確になった。子どもの主体性を高める視点を校内研究にも生かし、研究の質を高めていきたい。

谷口先生ご講義



廣岩先生ご講義



★ 子どもに問い続けること、思考を止めないことが大切だと思った。行動したことを価値づけることは自己肯定感や自己有用感にもつながるので評価の声かけを変えてみようと思う。

★ 子どもが自ら課題を設定できるように、反転学習を取り入れて、子どもの疑問から課題を設定するように授業改善をしたい。各教科でも、子どもにどんな資質・能力を付けたいのかを意識し、子どもがメタ認知をしながら資質・能力を伸ばしていける仕組みを作りたい。

対談&質疑応答



★ 各教科でもう一度、主体的な学びとは何か、深い学びになっているかを振り返る時間をもちたい。自分もPBLに挑戦してみたい。

★ 次の授業時間につなぐ。授業の終末に次時の足場かけをする。授業時間外に個人や各グループだけで活動できる余地を残しておく。



参加者同士がチャットで意見等を共有し、多くの気づきや学びを得ることができました！



文部科学省が進めている次期学習指導要領改訂に向けた議論の中では、改訂の焦点として、「情報活用能力の育成」や「探究的な学びの推進」等が挙げられています。今後ますます「探究的な学び」や「PBL」の推進、充実が求められます。

今回の研修で講師のお二人からも示されたように、育みたい資質・能力を明確にし、子どもの問いを起点に、その行動を促し、価値づけしていく、一連のサイクルを意識した授業づくりが大切です。各学校において、「子どもの主体的な学び」を一層深める研究と実践を進めていただくようお願いします。